

文化理解とコミュニケーション能力向上のための スペイン語教育の試み

大森 洋子 (研究代表)・原田 勝広

(報告執筆 大森 洋子)

0. はじめに

本プロジェクトは、学生のオンラインによる外国語学習の効果を探るものである。中南米のスペイン語を母語とするグアテマラで展開されているSKYPEによる会話トレーニングシステムと提携し、インターネットを利用しネイティブスピーカーによる直接指導によって初級の学習項目の練習を補強すると同時に、コミュニケーションテーマをグアテマラの社会、文化と結びつけることで、学生のコミュニケーション能力の向上を図ること、そしてその活動を通し、学習者の学習動機の向上またその維持にどの程度貢献するか、ラテンアメリカ社会への理解がどのくらい深まるかなどを検証することを目的とした。

本報告は、1. オンラインコース開講までの準備、2. 学生の実施状況、3. 実施先からのフィードバック、4. 学生からのアンケートに基づく実施報告、5. 総括および今後の課題の5節からなる。

1. オンラインコース開講までの準備：教材準備

本プロジェクトでは、グアテマラのオンラインコース、スパニッシモに依頼し、本学学生から希望者を募り、1学期程度の学習ができる自習コースを展開することで、学習者の自律学習の姿勢を養成すること、スペイン語学習の動機付けを高めること、さらにスペイン語がラテンアメリカでもはなされていることを理解し、ラテンアメリカへの興味、グアテマラへの興味を持ってもらうことを意図して、計画した。

従って、内容は、初年度で使っている教科書の学習内容に合わせ、1年からの学習者でもさらに2年からの学生が復習、会話実践を目的として受講できるように工夫してもらうこととし、教材開発を行った。

教材開発については、スパニッシモから提案されたものをこちらで確認し、問題点についてコメントし、修正を繰り返した。独自教材の特徴として目指した点は、①より会話実践コースとしてふさわしいコースにすること、②文化の理解のために役立つような教材、③グアテマラ在住の教員でしか教えられない要素を取り入れることであった。文法についての説明、練習等は最小限にとどめ、コミュニケーション能力を向上するためのアクティビティを盛り込むこと、教室で使っている教科書にはない、グアテマラについての理解を深めるような教材を挿入することを提案した。これらについての修正提案、修正案についての検討はスカイプで3回の会議によって行った。

2. SKYPE 授業の開始と学生の実施状況

実施時期を学生が授業になれた頃が最適であろうと考え、実施開始を5月中旬とし、説明会を4月30日、5月1日にそれぞれ横浜校舎、白金校舎で行った。募集定員を15名としたところ13名の応募があった。(うち、1名はアメリカ留学中の学生)

4年生：6名、3年生：3名、2年生：1名、1年生3名（男子学生：2名、女子学生11名）、文学部：1名、経済学部：2名、社会学部：1名、法学部：1名、国際学部：7名、心理学部1名
このうち、授業以外でも短期留学プログラムなどで学習を続けていた学生が6名、授業でスペイン語を1年以上学んでいる学生が4名、1年生が3名という状況であった。この数字は、学年が進むにつれて、スペイン語の学習により具体的な目標をもつようになる傾向を表しているとも言える。

グアテマラとの時差および担当教員の都合等で、授業は主に早朝、または夜10時以降の時間が設定された。当然のことだが同時帯(深夜)への希望が多かったため、時間割の調整が難しく、実施直前までの調整が必要となり、コーススタートに支障をきたし、コース最初は授業への出席率が悪かった、という報告を受けている。授業開始は曜日等によって若干異なるが5月15日、50分の授業が1週間に1回、計12回行われた。最終的には、出席率は77.6パーセントであった。

3. SKYPE 授業実施、スパニッシモからのフィードバック

コース開始当初は、学生が指定の時間にコンタクトしないような状況があった。しかし、最後には、77.6パーセントという出席率となった。回を重ねるごとに、授業に出席する学生とそうでない学生に差が観察されるようになった。

授業では、最初はネイティブスピーカーとの会話に戸惑いもあったようで、沈黙の時間もあつたが、回を重ねるごとに質疑応答等ができるようになってきた。同様に、リスニングにも少しずつなれていった。一方、リーディング課題では辞書がないと作業ができないなど問題があり、読解作業をこなすのに時間がかかり、なかなか進まなかったという報告があった。さらに、コースを自律学習の1つの手段として位置づけ、プロジェクト主催者側からのチェックをしなかったためか、コースで出される宿題等についてきちんとこなさない学生等も見受けられた。受講者は積極的参加グループと申し込みが興味本位であったために実際の授業についていけない2つのグループにわかれたと言える。積極的な学生は、コース終了後もメール、facebook等を通じて交流が続いているようである。

4. 受講後のアンケート結果から

受講後にアンケートを行った。13名受講者のうち8名から回収ができ、それぞれの総括はおおむね肯定的なものが多かった。出席率に関する質問では、ほとんどが毎回出席、または、1、2度の欠席のみにとどまっている。

以下がアンケート結果である。（回答数 8）

設問1：参加はどの程度でしたか。全出席 4 ほぼ出席 4

設問2：授業内容はどうでしたか。難しかった点、簡単すぎた点など自由に記載してください。

- a. 先生がとても親切でやりやすかった。ずっと続けたかった。
- b. 初回は簡単な挨拶や自己紹介だったので、スペイン語の授業でやっているような内容で簡単だった。回を重ねるごとに、人物描写や道案内など使う語彙も増え、時制などの文法が難しかったが、実用的な表現を学ぶことができた。
- c. 授業で提供してもらった内容自体は面白くやりやすかった。難しいところはほとんどなく、会話入門としては簡単すぎることもなくちょうどよかった。
- d. きちんと私のペースに合わせてくれた。しかし、課題がやや易しすぎた。現在形を中心にしか習わなかったから、もう少し実践的でもよかったと思う。
- e. 日常会話がほとんどだったので、使える表現をたくさん学べてよかった。
- f. わからなくて言葉に詰まっても根気良く待ってくれるし、レベルに合わせて英語も交えながら説明してくれたのでとてもわかりやすかった。教材で、文章を読んで問題に答える形式だったが、割と簡単だったと思う。ただ少しレベルが上がっても自分が対応できていた自信はないのでちょうどよかったのだと思う。
- g. 少し簡単だと思う点がありましたが、しかし順番に進められていくのでそれを伝えることもできませんでした。教材をその日に配布されるので、もう少し事前に配布し、単語を調べる時間があればもう少し高度な内容が学習できたかなと感じております。
- h. 自分のレベルにあった教材を使って授業をするので、しっかり勉強できてとても良かった。

設問3：授業のなかで良かった点をあげるとするとどんな点ですか。具体的に書いてください。

- a. 先生がきちんとレベルに合わせて進めてくれる。私の勉強のスタイルに合わせて授業を行ってくれた。通信障害になった時も違う時間に回したりしてくれた。
- b. 先生との1対1のコミュニケーションで、自分のペースにあった勉強ができた。間違った表現を使うとすぐに訂正してくれるので、その場で覚えることができ良かった。受講期間終了後も、メール等で、担当の先生に質問すると丁寧に答えていただけるのでとても助かっている。
- c. 先生が英語を理解できたので、英語でスペイン語を学ぶことができ個人的には日本語でスペイン語を学ぶやり方よりも適していた。
- d. 先生とフレンドリーにさまざまな話ができたと。タスクをこなしていく授業というより会話中心であった。また、何か伝えようとして言えないときずっと待っていてくれた。授業のあとのフィードバックコメントもよかった。スカイプなのでわからない単語に出会ったとき、チャットのところでやり取り、説明ができること。先生がずっと同じ人だったこと。最終的に教師と生徒の絆ができた。

- e. 先生が親切だった。先生は英語も堪能だったので、スペイン語がわからないときは英語で質問したら、わかりやすい英語で説明してくれた。先生と年齢が近く、彼女も学生だったため、むこうの学校の様子などをきけたこと。2の質問同様、日常会話で使える表現をたくさん学べた。なにより、ネイティブの人と会話することでスペイン語の力が伸びたと実感することができた。一番はやはり、すごく楽しく会話できた点。
- f. 先生と雑談ができること。何かを話そうとすると、いきなりだと単語が出てこないので授業の前に多少調べて準備していたので、準備自体もいい勉強だし、話していく中で先生の話も聞けるので、楽しい。わからないことがたくさんあるので正確に理解できるわけではないが、家に居ながらスペイン語で会話できることがうれしい。問題の意味や単語がわからないときに気軽に質問できることも良い。
- g. 生きたスペイン語をそのまま学習できる点です。教科書の丸暗記では決してでてこない言い回しや単語、様々な挨拶表現や感謝の伝え方などを学ぶことができました。そして講師の方が住んでいるグアテマラの地形や文化なども知ることができ、自文化を知り、表現する力もつきました。ネイティブの方とお話できる機会は日常では皆無なので、この機会が与えられて本当に良かったです。
- h. 分からないときは、分かるまできちんと説明してくれるところ。

設問4：授業内容等でこれから改善したいと思われる点がありますか。あれば書いてください。

- a. なし
- b. グアテマラの天候やインフラ整備等でスカイプの調子が左右されやすいので、授業の途中で突然回線が途切れてしまうことが何度かあった。宿題や自習用の教材をもっと出してほしいかった。
- c. いきなり授業のマテリアルに入るのではなく、最初の5分ぐらいはお互いの日常会話について楽しみたい。授業内容だけで、話題を探すのはつまらなくなる点がある。
- d. 個人個人のレベルを適切にみて、課題も考えて出すべきだと思う。会話のみなのか、文法とかも教えていくのかあいまいで授業がだらだらしがち。
- e. なし
- f. 授業の時間の選択肢が早朝か深夜しかなかったのがつらかった。ただ、大学の厚意によって無料で受けられることを思うとありがたいことで、今後自分でもスパニッシモで学習を続けたいと思う機会になったので良かった。最初の授業日を知らせる教養教育センターからの連絡がほしい。何を準備していつ始まるのか分からないまま、初回に参加できなかった。
- g. 教養教育センターの連絡が遅い。授業は毎回資料が配布され、それを朗読し、意味を確認、問題を説く、のような方式で進められました。テストなどもなく、気軽に授業できるところ

が魅力であり特徴だとも思いますが、もう少し一つ一つの授業につながりがあるものだとさらにやる気がでると思います。(例えば授業のはじめに小テストやクイズの出題など)

h. 特になし

設問5：授業を受けて、自分のスペイン語力のどんな点が改善されたと思いますか。具体的にあげてみてください。

- a. 聞き取り能力はもちろん、話すことへの抵抗が少なくなった。スペインにしか興味がなかったが、スペイン語圏への興味も増した。
- b. 受講当時は、スペイン語を使った接客の仕事をしていたため、良く使う会話表現を学ぶことで、すぐに仕事に活用することができた。また、スペイン語を話せば話すほど、中南米圏のお客様とも打ち解けることができたので、スペイン語の習得にますます意欲がわき、現在は資格取得を目指し努力している。
- c. 短期間で大分スペイン語での会話力が上達した。思った以上に、スペイン語が話せて、理解できることに自分でも驚いた。実際にスペインの人よりも、南米のスペイン語のほうが聞き取りやすいので、南米に旅行などについて自分のスペイン語で力試しをしてみたいと、モチベーションも上がった。11月末に受けた、DELEA2のオーラル試験でも役立った。(が、試験官のスペイン語が想像していたよりもかなりの速度だったので、スペイン語の早い速度にも慣れたい。)
- d. 忘れていた単語を思い返すことができた。普段だとなかなか話す機会がないので、スペイン語で必死にコミュニケーションをとることは自分の文法や表現の間違いをを見つけることができる。自分で言いたいことを伝えるための表現を学べた。
- e. 一番はやはり聞き取り能力が向上したことだと思います。回数を重ねるに連れて簡単な文章などは辞書を使わずに読めるようになりましたし、簡単な質問などにはすぐに答えられるようになりました。
- f. 会話が少しできるようになった。グアテマラに興味を持つようになった。
- g. スペイン語の学習意欲が向上しました。正直なところ、会話ができるようになった、リスニング力が向上したとは思えず、実感することもなかったです。しかしこの授業を受講することには大きな意味がありました。先程も述べさせていただいたように、生きたスペイン語を学習できる機会はないからです。生きたスペイン語を学習することで、フレーズを覚えて使ってみよう、など、普段机に向かって学習する時とは違う勉強の仕方を学ぶことができました。なによりスペイン語を学習することが毎回とても楽しかったです。
- h. あいさつや簡単な会話ができるようになりました。スペイン語にもとから興味があったけど、さらに増しました。

設問6：なにか具体的にグアテマラ、ラテンアメリカについての理解に役立った点、興味を持った点はありますか。具体的に記入してください。

- a. ラテンアメリカの国々そのものに興味がわきました
- b. 先生との会話で、グアテマラの民族衣装、歴史的建造物、生活等を教えていただいたので、ラテンアメリカを観光してみたいという気持ちが芽生えた。
- c. フィリピンに留学していたこともあって、フィリピンと同じスペイン植民地文化が残る南米に関して、学部分野（社会学）と関連させた知識も得ることができ、相手の文化や習慣、社会などにとっても興味を持つことができた。語学学習ツールだけの要素としての授業内容だけで行うのではなくて、実際に相手の言語を使って相手の国のことを知るということが、私にとって多言語を学習する意義でもあるので、今回そのような機会をもてたことに非常に満足している。ある程度意思疎通できる自信もついたため、今後も積極的にこのような形式でスペイン語会話の受講を試みたい。
- d. グアテマラの人々の生活や貧富の差に興味を持った。グアテマラでは、排水溝がごみで詰まり、大雨のときに浸水するのが日常という話を聞いて大変驚いた。スペインのスペイン語と中南米のスペイン語の違いにも興味を持てた。たとえば、「自動車」はスペインだと coche だが中南米では carro であるなど。
- e. 先生は大学に通っていたり、趣味でイタリア語や日本語を勉強していたり、また旅行などにも行っていたりして、わりと裕福な？生活をしている印象だった。だが、グアテマラの貧困率は私が思っているよりも高かったり、治安などはあまりよくないと知り、グアテマラという国がどんな国なのか、特に何に興味をもったというよりは、国や国民、国風はどんな感じなのか興味を持ちました。
- f. アンティグアの写真を見せてもらい、行ってみたいと思った。
- g. 南米にとっても興味があったので、スペイン人の先生でなくグアテマラの方で私はとても満足しています。グアテマラの文化、観光、地形、歴史なども授業で触れていただき、とても楽しかったです。南米の方を先生とすることで、同じ意味でもスペインで使われる単語と中南米で使われる単語は違うことなどをすることができていいと思います。将来グアテマラに行き、先生にお会いしたいと思いました。
- h. グアテマラに行って、SKYPEの先生に会いたいと思いました。

設問7：その他（自由記述）

- a. 出来ることなら週2で、もっと言えば通年で授業をしたかったです。
- b. スカイプでの授業は、ネット環境さえあればどこにいてもできるので、とても助かります。私は受講当時、アメリカに留学をしていて日本にいなかったのですが、このような形で授業を受

ける機会がもっと増えれば、事情があって大学へ通っていない学生にも有効な学習方法になる、と考えました。

- c. なかなか忙しくて、思った以上にスペイン語学習に時間を割くことができず、せっかくこのような大学で提供していただいた機会を十分に活用することができず大変申し訳ないと思っている。ただ、本大学の学生に対するこのような積極的なスペイン語学習機会の提供いただいたことによって、入学してきたときから目標にしていたDELEのA2の試験レベルまで達することができたので、卒業後もスペイン語学習を続けて、いつか南米で国際協力ができるレベルに達するまでの準備を今後とも着々と進めていこうと今から意気込んでおります。
- d. SKYPEでのスペイン語の授業がとても楽しかったので、春休み、自分でコースをお金を払って申し込もうと思っています！
- e. 今後も絶対に続けてほしい。スペイン語を学びたい学生にとってはとても刺激的で、意欲もより向上する。学びたいけど自信がないという人でも、先生が親切なのでぜひ参加してほしい。
- f. 現在4年生で、これまでTOEICやAVEのオンライン学習コースなど、さまざまなものに参加し学習してきましたが、この半年間のSKYPEスペイン語コースの受講が様々なプログラムの中で明治学院大学にきて一番為になった学習だったと感じております。それは生きたスペイン語を、会話を通じて学習できるところにあります。自分の自由な時間ではなく、ある程度時間を拘束され、毎週同じ時間に学習する癖をつけることで学習が習慣化されます。そして学習のペースは個人の学習レベルに合わせてもらえるので集団授業よりも効率的に学習できます。
- g. SKYPEでスペイン語を学ぶ機会をつくってくれたことに感謝しています。またやりたいと思いました。

5. 総括および今後の課題

学生のアンケートからみて、学生のコミュニケーション能力の構造、動機付けの向上および維持、さらに世界のスペイン語、ラテンアメリカ、グアテマラ理解にむけて大きな意味を持つことがわかった。

第1に、SKYPEコースは教室外でスペイン語に接する機会のない環境での学習にとっては大きな意味のあることがわかった。教室で学ぶ様々な語彙、フレーズがリアルな文脈のなかで使われることで、外国語が単にひとつの教科ではないコミュニケーション手段であることを体得したと思われる。さらに1対1のコミュニケーションを体験したことが大きく、そこで行われた会話自体がリアルなものとなり、スペイン語をコミュニケーションの手段としてとらえることができたと言える。

これは個人指導により、個人の能力に応じた指導が可能となったこと、話すこと自体の抵抗感を消すという効果があった結果と言える。この1対1の関係で築いた人間関係は、今後もその交流が続けられ、スペイン語、外国語を学習するための大きな動機付けとなっている。

第2に、授業ではなかなか伝えきれないスペイン語圏の個々の文化的な内容、社会状況などをコースの内、運営のなかで感じる事ができたようで、グアテマラの文化、観光地、歴史などを通じて、学生のラテンアメリカの興味は高まったと思われる。さらに、グアテマラのスペイン語教師と接することで世界のなかのスペイン語、スペインのスペイン語との違いなどへの気づきにも役立ったと思われる。

学生からのフィードバックをみる限りは、今後もすこしずつ充実させながらコースを続けていくことに意味があると考えられ、将来的には自律学習のための一つ的手段となり得ると判断できる。

大きな問題点としては、参加学生のレベルのばらつきをあげることができる。入学間もなく初歩の段階から参加する学生、または短期留学プログラム等に参加しスペイン語により興味をもった学生がさらに学習をすすめたいということで受講した学生等がみられた。従って、今後は受講コースを初歩コースに限らず、本人のレベルにあったコースを受講させるなど教員スタッフと事前に詳細に打ち合わせし工夫が必要だと思われる。

また、学習の評価としてコースの目標を明示し、どこまでそれが達成できたかなどを学習者にフィードバックさせるようなシステムの構築が必要だと思われる。

最後に、講座としてスタートするにあたって、オリエンテーション、申し込み時期、申し込み受理から講座開始時期までについてあらかじめ計画し、学生への告知を徹底し、コースがスムーズにスタートできるように準備をすすめることが不可欠である。